

会議開催結果の概要

会議の名称	第5次大分市国際化推進計画策定委員会 第3回策定委員会
会議の開催日時	令和6年9月24日(火)15時27分～16時50分
会議の開催場所	大分市保健所 6階 大会議室
会議の公開または 非公開の区分	☒ 公開 ・ 一部非公開 ・ 非公開
傍聴者数	なし
出席委員	(委員長)下田 憲雄 (副委員長)中村 志信 (委員)伊藤 精、佐野 真紀子、板井 恭子、石丸 直子、 楊 佳、宮瀬 とも子、永田 佳也、正池 功 以上10名
会議の議題	議事1 第4次計画の進ちょく状況の報告について 議事2 第5次計画の取組の方向性と数値目標について 議事3 その他

第3回策定委員会

開 会

1. 策定委員の変更について

- オースティン・ヴォーン委員退任により、新たに楊・佳委員が令和6年8月16日から就任した。

<議事1:第4次計画の進ちよく状況の報告について>

- 事務局より第4次計画の令和3年度から令和5年度実績について説明

【質疑応答】

委員	施策4におおいたワールドフェスタは23件とあるが、これはフェスタを23回開催したわけではなく、1回の開催に23事業者が参加したという認識でよいか。
事務局	お見込みのとおりである。
委員長	数値の取り方の良し悪しについては、すでに決まっていることであるため、ここで議論することではないものの、反省すべき点があったのも事実である。 コロナや災害などの不可抗力により進ちよくに影響を与えてしまうことが確認できたため、第5次計画でどのような側面も踏まえて数値目標のありようについて議論をしないといけないことになろうかと思う。

<議事2:第5次計画の取組の方向性と数値目標について>

- 事務局より第5次計画の取組の方向性と数値目標について説明(施策1と2)

【質疑応答】

委員長	施策1の目標で、日本語ボランティア講座受講者数100人とあるが、100人の根拠を聞きたい。
事務局	講座受講者数は、在住外国人が増えてきている現状から、ボランティアの担い手を増やしていく必要があると考えた。 講座は今年度初めて実施予定であり、何人であれば妥当な数字なのかというところは不確かである。 今後の5か年で100人を目安に、そういった担い手を育てていきたいということで、設定した。

委員長	ニーズとしては100人以上と思うが、日本語をもっと勉強したい、小・中学校でも日本語のサポートをしてほしいといったニーズをボランティア団体で賄い、それに大分市も積極的に関与していくという位置づけで100人と設定したのか。
事務局	大分県などが実施している日本語ボランティア講座は定員が最大40名ぐらいとなっている。 今回、大分市のみでの募集であることから、20名×5年で100名という数字を挙げている。
委員	コミュニケーション支援の部分で、市から情報発信するだけではなく、外国人が外国人に情報発信するシステムがあると面白い。食や宗教、学校など、様々な情報交換ができるようなシステムがあると外国人のために役に立つと思う。 生活支援の部分で、病院にかかる際、それぞれ母国語と2か国語の問診票を作って配布するのがベストと考える。日本語があまり話せない技能実習生などには技能実習手帳の最後のページにそういった問診票が付いている。外国語がわからない病院にとっては非常に役に立つため、そのような2か国語の問診票を検討いただけたらと思う。
事務局	現在、大分市のウェブサイトや SNS 等において、神奈川県国際交流団体が実施している多言語医療問診票を掲載している。 また、大分県が実施している事業で、外国の方が病院に行った際に、県が提供している電話での通訳サービスを利用することも可能である。こちらに関しても県と連携して周知をしている。
委員	補足にはなるが、薬局に初めてかかる際に、薬局によっては英語の問診票があるところもあるが、多言語は見たことがない。その辺も一緒に考えていただきたい。
事務局	そのようなことについても情報収集して検討したい。
委員	施策1の目標で、日本語ボランティア講座受講者数というのは、入口の部分で人を増やすという意味ではよいと思う。 外国にルーツを持つ人も暮らしやすいまちづくりということを考えていろんな事業を行うことから、アチーブメントという意味で、例えば外国籍の市民アンケートを実施しているので、そこで暮

事務局	らしやすいと感じている人の割合を取ってみてはどうか。 まさに、これがこの施策の達成を見る指標ではないかと思う。 外国籍の市民アンケートについては、毎年行っているものではない。今回の計画見直しに合わせて外国人のニーズ調査を行うということで、初めて実施した。 今後どういった周期で、どのようにアンケート調査を実施するかということについて今の意見を踏まえ、目標設定の1つとして、どのような形で実施できるか検討いたしたい。 また、現在、この計画の上位計画である大分市総合計画を並行して進めている。総合計画の中で行政側が自発的に動いて達成できる指数と客観的な指数、例えば委員の言われた、暮らしやすいと感じている市民の割合等については、総合計画で採用している。そのようなことの関連性も評価しつつ検討いたしたい。
委員	施策2の目標で、平均値を取るということは仕方ないと思うが、例えば国際化、多文化共生イベントへの参加者数について、増加傾向にあるということなどが、見えた方がいいと思う。 どの数字を入れるかという難しさはあるが、この年は2万5,000人、翌年は1万9,000人になどという結果ではあまり意味がないのではと感じた。
事務局	今後5か年で国際的な大きな大会の有無や災害の影響等で参加者数が左右されるということもあろうかと考えたため、平均ということで設定した。 増加傾向にあるということが示せればという話であれば、目標年度の目標値ということでも可能であるとは考えている。 どちらにしても年度によりばらつきは出てくると考えたことから平均として提示した。
委員長	達成数値をどこで捉えるかという問題は難しいもの。 2023年度の数字に比べて大きくするという事でよいか。そこも考えないといけないと思う。 つまり、段階的に5年ごとにどう上がっていくかを検証するという考え方もあるので、現在の第4次計画の実績平均に対して第5次計画はそれを上回った平均実績を目指して取り組むというような考え方もあると思うので、検討していただきたい。

事務局	第4次計画期間中はコロナ禍の影響が大きい。2023年が1番平常時に近い数字であるという状況から目標数値を立てた。それに加えて第3次計画の部分と比較検討して、対象を何人に設定するかということを再度検証いたしたい。
委員長	2024年度の進ちょく状況はどうか。
事務局	2024年度について、まだ数字を把握していない。2023年度よりはイベント参加者数などの数字が大きくなると想定しているが、まだ1番大きなおおいたワールドフェスタ等の事業を実施していないため、わからないのが現状である。
委員	生活支援の取組の方向性で、大分市居住支援協議会での住まい探しにおける相談体制づくりとの記載があるが、相談体制や方向性はどのようなになるのか。 外国人の方が、住むところを探す時に不動産会社に行くと英語対応ができる会社も少ないなかで苦勞しているということを相談されたりしている。
事務局	大分市居住支援協議会は、住宅確保する際に配慮が必要な方、低所得者、高齢者、障がい者、外国人なども含めてそういった方たちが円滑な居住の促進を図るために最近、立ち上がったばかりの協議会である。 その中で具体的にそれぞれの対策について明確な方針を決めるという段階まではいたっていない状況だと考えられ、またこの計画期間の5か年でその外国人対策が画期的に進むということがない可能性もあるが、協議会に立ち上がったため、その中でそういったことも含めて検討していくことになるかと思う。
委員	外国人に対してもケアできるような体制がこの中で取ることができるのであれば、スムーズに大分県に住んでもらえると思う。その辺も考えながら、取組を進めていただきたい。
事務局	補足だが、荷揚リンクスクエアに住むケアおおいたという団体が入っている。低所得者などの入居に苦勞されている方に対してサポートをしているが、外国人に対してもそこを活用して、今後サポートをしていく予定とのことである。

委員	その団体のなかで言語に関しての対応は可能か。
事務局	その点について、今後検討いたしたい。
副委員長	外国人に向けての情報発信について、大分市公式、国際課、Facebook、インスタグラムなどでも行われていることは拝見しているが、外国人にとって必要な情報の集約化は進んでいるかということを確認したい。 防災や救急、教育など行政の部署が、個別にそれぞれで翻訳をした英文の資料等を用意していると思う。 外国人の方が、必要な情報を探してもなかなか見つけられないということがよくあるので、そうした情報がどこかに集約されているか。 集約されているならば、そこをもう少しクローズアップして情報発信をしていくという体制にすることで、ここさえ見ておけば大丈夫というところがあれば、あとはそこから派生的に情報も発信できる。 例えば、古いガイドブックがどこかのサイトに残ってしまっており、それを見て手続きした外国人が、現在は申請方法が違うので、再度手続きをやり直さなければならないというケースもなくなると思う。 もし集約したものがないならば、集約は可能かを検討いただきたい。
事務局	国際課が作成している情報について、転入時等に便利なリンク集というものを配布している。 それを見ると大分で住むうえでの必要な情報、例えば多言語での問診票、国際課の Facebook やインスタグラムを載せており、それを見れば、必要なことが全てわかるようにしている。 部署ごとに資料の集約ということはできていない。できる方法を今後検討、模索いたしたい。
委員	生活支援の面で、在住外国人ということを前提に考えているか。 例えば、海外からの旅行者は考慮の範囲には入っているか。
事務局	生活支援の災害時の体制支援の整備が一番わかりやすいかと思うが、大分市で災害が発生した際に多言語のコールセンターが状況に応じて立ち上がるようになっている。

委員	そのコールセンター自体は大分市内在住の方だけではなく、大分市を観光している方も利用可能である。 大分市内在住の方だけではなく、大分市に滞在している方にもサービスが届き渡るよう、試行錯誤しながら取組を行っている。 ホテルなどに防災ガイドを配布するのが良いと思う。外国と日本と災害の事情が異なるため、初めて経験する災害というものたくさんあると思う。 例えば、津波や地震は地域によっては起こらない災害で、いざ災害が起きたらどうすればいいかわからない。 ホテルにそのような多言語の防災ガイドなどがあれば、どのように対応すればよいか分かり、行政側の外国人に対する災害時対応の負担が減るのではないかと思う。 中国では簡単な防災ガイドが置いているホテルもある。 例えば、このような多言語の防災ガイドやハザードマップなどが宿泊先のホテルにあれば、非常に安心だと思う。災害の情報を見かけることはあるが、観光庁が発行した小さな QR コードだけが載っているだけの状態である。 紙のものが直接ホテルに置いていると災害に対して、どのように対処すべきかがわかるうえ、旅行の外国人の受け入れのことも考えていると来日外国人は実感でき、プラスの感情に繋がるのではないかと思う。
事務局	前向きにできる方法を模索して、検討いたしたい。
委員長	議論尽きないが、時間の関係上、残りの2つの施策についての説明をお願いしたい。

<議事2:第5次計画の取組の方向性と数値目標について>

■ 事務局より第5次計画の取組の方向性と数値目標について説明(施策3と4)

【質疑応答】

委員	インバウンド観光の推進で、参考資料の事業内容などを見ると事業計画で各言語に応じたパンフレットを作成するようになっている。 これは紙ベースなのか。紙ベースのものはある程度減らしていても良いと思う。特にインバウンドの方々は、紙よりはほとんどスマートフォンなどを使ってネットから情報収集されている。例えば観光地の QR コード化を図るなどそういうことに力を入れられた方が良いのではないかと思う。 また、施策3の数値目標で、海外展開支援件数を検討しているようだが、施策3は3項目ある。 今の目標では、海外販路拡大への支援のところだけで達成できればよいということになってしまうのではないか。 例えば、インバウンド観光の推進における目標値を立てるとか外国人材の雇用促進のところで何らかの数値目標を持つのであれば、そこで目標を立てるなどが良いと思う。 インバウンド観光の推進は、観光戦略プランなどと重なることがあるかもしれない。他の計画と重なるのであれば不要だが、重なっていないのであれば、別途目標を作っても良いと思う。
事務局	施策3について、委員が言われたとおり、インバウンド観光の推進、外国人観光客数は、別の観光戦略プランと計画年度が異なる関係から数字の設定が難しい状況である。 外国人材の雇用促進は、市のレベルで数値目標の設定は難しい状況。外国人労働者を何人に増やすとかどのような取組みで数量的に増えるかということを捉えるのが難しい項目である。全ての小さい施策に対して目標を立てることは難しいと考えているが、担当課に再度目標設定可能かどうかを投げかけて検討いたしたい。
委員	外国人材の雇用促進は、実際の雇用人数を目標にするのではなく、先ほど施策1で、日本語ボランティア講座受講者数のような直接的ではない部分の数字を目標にしている。そのような数字をここに持ってきたらよいのではないかと感じた。

委員長	ぜひ検討していただきたい。 その他、検討していただきたいという意見はあるか。
委員	取組みのところで大学コンソーシアムだとかそういった団体の名前が出てきました。様々な団体と連携してそれぞれの役割を果たしていくということとはできないかとずっと感じていたので、大分市主導で頑張っていたideきたいと思う。 また、武漢市の関係でゴミやリサイクルの話があった。以前、武漢市と話をしていた際、し尿の処理ができておらず、何とかならないか、大分の企業に協力してもらえないかと話題になった。今後そのような機会があるならば、し尿処理を含めて話をしていただきたい。
事務局	今年、大分市と武漢市は友好都市締結をして45周年を迎える。 訪問団がこの10月25日に来る予定になっており、し尿処理などの環境面の協議について、現在武漢側の担当と話をするようにしているため、協議をいたしたい。
委員長	他に意見や質問がある方は9月30日までに事務局へ提出していただきたい。 プランの改善になると思うので、ぜひお願いしたい。 数値目標は難しい。提示されている数値目標は、達成目標ではなく、どちらかと言えば中間ターゲットの目標でしかないもの。 最終目標についてはこの計画だけで、動くようなものではないという性格のものが多くなっており、適切な数値目標を立てることが難しくなっているのかもしれない。 各委員感じるところがいろいろあると思うので、事務局の方へ提出していただきたい。それが出てきた段階で取組の方向性及び目標設定の修正作業について、事務局修正案を私の方で確認しながら進めていく。 修正案については次回の委員会でお示しするので、そこでまたご意見いただきたい。

<議事5:その他>

■ 特になし

閉 会